

米草原
第1号古墳



1400年近く前の豪族のお墓です。直径10メートルの円墳で中に石室(1.2m 3.8m 1.5m)をもつ大きな古墳です。この地にかなりの勢力をもった豪族がいたことがうかがえます。

標高220mの古墳への道を歩くとき大きな石をかついで上る祖先の人々の息づかいが感じられます。

関の
薬師さん



小山の上に建つ小さな薬師堂には、平素は薬師如来様はおられません。すぐ南下の岡本さんのお宅に安置されています。秋祭りのよごろの日に如来様はここに安置され轆もたてられて法要が営まれます。

この関の薬師さんの起こりは不明だけれど地域の人の手によって大切にされてきました。

了屯の力石



200年くらい前、倉重村と坪井村の山境の争いがありました。その解決にあたりそれぞれの村の豪力にくくらべをさせ勝った方の言い分を聞き入れることにしました。倉重は了屯、坪井は将元。村人の見守る中二人のくくらべが始まりました。ついに了屯が勝ちました。了屯が毎朝四・五十回高く持ち上げトレーニングに使っていたという石がこれです。岡本家の庭に置かれています。

千同の棚田



極楽寺山の傾斜地に開けた観音村は、その斜面に階段のように田んぼをつくって、米づくりをしてきました。人の手で一つ一つ石を積み上げ造った田んぼの重なりには、当時の人々の汗と願いがこもっています。

今は宅地化が進み、この棚田もだんだん消えていっています。

千同の
ため池



昔は、ここは山の中でした。広い池の水面に山の木々が静かに映っていました。

大きな川のない観音村の人々は、米作りのための水不足に悩み、みんなで力を合わせてこの池を作りました。機械もないころ、もっことくわを使って人の力で築いた池です。この池の水が流しだされ田んぼの中に注がれました。東側の隅っこに水を調節する板があります。

水災橋



倉重川にかかる橋で、昭和3(1928)年に発生した倉重の水害後に地域の復興とともにつくられました。水害を忘れないために、この橋は水災橋と名づけられました。

湯津彦神社
(二の宮さん)



木々に囲まれた小高い山中に古びた社殿がひっそり建っています。「二の宮さん」とも呼ばれています。中には、古いけれど紅や緑・青の色彩豊かな絵馬が36枚掲げられています。かつてはここで子ども相撲が催されにぎわっていたそうです。

かげともの道
(倉重)



倉重の高山神社跡(①参照)の前を通っている細い道です。ここから、坪井・三宅方面へむかっています。

